

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・タブレット端末を活用し、個別最適化を推進する授業づくり。 ・児童の実態に応じた教材づくり。 ・板書の工夫による視覚化。	中間評価		最終評価	
		・ソーシャルディスタンスや三密回避を意識させる工夫。 ・学習・生活の規律の徹底。				
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<b>学</b> 物語文では音読を通して、登場人物の気持ちを考えて主体的に表現することを楽しんでいる。文字の書き取りでは、ひらがなやカタカナ、既習の漢字を正しく書くことができない児童が多い。	・既習漢字について、正確に書く力を伸ばす必要がある。  ・助詞(は・を・へ)や促音、拗音の正しい表記に課題がある。	・ミニ漢字テストを定期的に行う。テストの前には、必ず間違いやすいポイントを確認して、授業で練習をさせたり、家庭学習で確認させたりする。  ・ノートを毎時間回収し、間違いがある場合には個別に支援をする。		
	算数	<b>学</b> 計算問題は積極的に行う児童が多い。しかし、文章題の意味が分からなかったり、計算で見直しをせずケアレスミスをしたりがよくあり、正確さに欠ける。繰り上がりや繰り下がり計算が苦手な児童も複数名いる。	・繰り上がりや繰り下がりのある加減計算の技能に課題があり、計算ミスをなくす必要がある。  ・文章問題の内容に合った立式ができるようにする。	・文章問題では、立式に必要な数字や言葉に着目させ、立式できるように指導する。また、デジタルドリルなどを利用して繰り返し取り組ませる。  ・デジタル教材を用いて、視覚的、体験的に理解できるように指導をしていく。		
3	国語	<b>調</b> 新宿区学力定着度調査の結果は、区の平均を10ポイント以上下回った。特に、漢字の読み書きの正答率が低い。 <b>学</b> 語彙が少なく、漢字の誤答や書けない漢字も多い。文章を書かせても、習った漢字を使わず平仮名で書いており、書く量も少ない。	・説明文や物語文の読解の力が弱く、文章の内容を正しく読み取ることができるように指導する必要がある。  ・漢字の読み書きに課題がある。  ・作文では、自分の考えを文章に書き表すことが苦手である。	・説明文や物語文の練習問題を解く際には、答えの振り返りを大切に、全体で文章を読みとって理解できるようにする。  ・漢字の家庭学習を毎日出す。  ・テーマや字数を決めた作文に取り組み、書くことに慣れたり、提示した書き方をもとに、書き方を学んだりできるようにする。		
	算数	<b>調</b> 新宿区学力定着度調査の結果は、10ポイント以上区の平均を下回った。特に、かけ算と計算の正答率が低い。 <b>学</b> 学習に意欲的で発言も多い。しかしノートに書く時間や計算に時間がかかる児童が多く、計算ミスが目立つ児童も一定数いる。	・文章問題の立式や単位に気を付けた解答をするように指導をする。  ・演習量を増やして、解きながら理解する形を取る必要がある。	・デジタルドリルを活用して、文章問題や計算問題を積極的に取り組ませ、既習内容の定着を図る。  ・文章問題は、図などに表して考え方をまとめる力をつける。位や繰り上がり、繰り下がり意識して繰り返し練習することで計算できるようにする。		
4	国語	<b>調</b> 新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は目標値を上回った。しかし、話の内容を聞き取ることや物語の内容を読み取ることは目標値を下回った。 <b>学</b> 個人差があり、自分の意見を相手にしっかりと伝えることができる児童はおよそ10名程度である。また、ノートに自分の考えを書く段階でも、伝えたいことが定まっていない児童がいる。	・内容を正しく読み取ったり、聞き取ったりする力を伸ばしたい。  ・読み取ったことをもとに自分の考えをもち、それをノートに書きながらまとめ、伝えられる児童を増やしていきたい。	・大事な言葉や文章にサイドラインを引きながら読み取り、ノートにまとめる機会を増やす。  ・読み取ったことや学習したことについての自分の考えを、学習感想として書き、発表することに繰り返し取り組む。		
	算数	<b>調</b> 新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は目標値を上回った。しかし、文章問題を図に表すことや適切な単位を使うことは、目標値を下回った。 <b>学</b> 計算問題が得意だが、文章問題になると聞かれていることに正対して答えられていない児童がいる。また、問題を正確に読み取ることの難しい児童がいる。	・文章問題の意味を正しく読み取り、図で表すことができるように指導する必要がある。  ・身近なものの単位を正しく使うことができるようにしたい。	・デジタル教材を用いて視覚的に文章を読み取らせるとともに、聞かれていることと分かっていることに線を引かせるなどの工夫を授業に取り入れる。  ・具体物を活用しながら、体験的に単位の仕組みを理解させる。		

5	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果、区の平均値よりも上回った。基礎的な問題においては大きな問題は見られないが、文章を書く問題では無回答が多く見られた。</p> <p>学 自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思ったことや考えたことを書くことができるように指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はじめ」「なか」「おわり」を意識して文章を書くよう指導する。また、学習感想では、読み取ったことに対する自分の考えを書くことを繰り返していく。</li> <li>テーマや時数を決めた作文に取り組んだり、提示した描き方をもとに書き方を学んだりできるようにする。</li> </ul>		
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果は区平均値よりも上回ったが、折れ線グラフの問題の無回答が多かった。</p> <p>学 学習内容は理解しているものの、自分の考えを書いたり、友達に説明したりすることが苦手な子が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフの読み取りが正しくできるようにしたい。</li> <li>自分の考えを表現する力が弱いので、書く機会を増やす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフの読み方など、前学年までの学習内容を復習する。</li> <li>図や式、言葉で表す方法を教え、それらを活用して自分の考えをノートに表現できるようにする。</li> </ul>		
6	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果、校内平均は区の平均を上回ったものの、文章を書く問題では無回答が多く見られた。</p> <p>学 漢字を書いたり、簡単な文章を書いたりすることはできる。しかし、自分の考えの根拠を示したり、友達に分かりやすく説明したりすることは苦手な児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くのに時間のかかる子が多いため、作文することに慣れたり、「始め・中・終わり」の型を身に付けたりして、書く力を身に付けることが必要である。また、考えの根拠を示す習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週末作文に取り組ませ、書くことに慣れさせる。</li> <li>「始め・中・終わり」を意識したり、考えの根拠を示したりして文章を書くよう指導する。また、学習感想では、読み取ったことに対する自分の考えを書くことを繰り返していく。</li> </ul>		
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果、校内平均は区の平均を上回った。学習内容の定着に個人差があり、分数と小数の大小比較、小数のかけ算の理解が不十分である。</p> <p>学 自分の考えたことをノートに表すことはできるが、相手に分かりやすく伝えることは苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の習熟を図る必要がある。特に苦手な単元については、前学年までの復習を十分に行う。</li> <li>相手に分かりやすく伝える力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して、一人ひとりの学習内容の定着度を把握する。</li> <li>単元や授業の導入場面で前学年までの学習内容を復習してから本時の学習につなげる等、学習の系統性を意識して授業を行う。</li> <li>互いの考えを比較検討する場面で、ICTを活用しながら、共通点や差異点、より効率的な考え等の視点をもたせて話し合う活動を取り入れる。</li> </ul>		
音楽	<p>学 全体的には意欲的に学習に取り組んでいる。音楽の諸要素と関連付けて自分の感じたことや気付いたことを伝えることに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年があがるにつれ技能面の個人差が二極化する傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽のよさや特徴について感じ取ったり、どのように表現したいという思いをもって表現したりする。</li> <li>リズムと拍の違いや、音程や音の長さといった音楽の諸要素について理解し、自ら進んで学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の諸要素を提示し、常に意識して見られるようにする。</li> <li>ICTや動画、音源などを活用し、活動への見通しやイメージをもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>学習の視点をしっかり意識させ、他の児童の良い気付きを共有できるようにワークシートや実物投影機の活用、発表の方法を工夫する。</li> </ul>			
図工	<p>学 造形活動に興味を持ち、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。</li> <li>材料や道具に触れ、ものづくりを楽しむが、つくりながら発想を広げ、深めることが難しい児童がどの学年にも若干名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な道具や材料の扱い方の苦手をなくす。</li> <li>造形活動に対する苦手意識をなくす。</li> <li>手順通り作る過程で、試す、工夫する等、よりよいものにしようと追究する力を培っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を多く積ませる。</li> <li>実物投影機やタブレットを活用する。他の児童の作品やアイデア等を紹介し、視野を広げられるようにする。</li> <li>材料や用具を自分の表現に合わせて「選び・試す」ことができるような時間を確保するなど、学習過程を工夫する。また、「選び・試す」ことに取り組みやすいような場の設定を行う。</li> </ul>			
特支	<p>学 学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師の指示や友達の話聞いて正しく理解することが難しい。</li> <li>グループでの話し合い活動も苦手になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定の話型を使い「わからない」と伝えることはできるようになってきているが、何が「わからない」のかを伝えられない。</li> <li>教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに口に出したりせず、他の人の意見を受けてから、自分の意見を述べるができるようになることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「何がわからない」というように他者に伝える言葉、話型の提示。</li> <li>二か月に一回、認知機能を高めるドリルを全学年で実施。聞く、想像するなどを中心とした認知機能を高める指導を行う。</li> </ul>			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。